

「アグリシードファンド」県下JA取扱い第2号案件について

岐阜県下JAでは、農業法人の事業拡大や財務の安定化等を目的とした金融支援を行っており、平成28年3月に、県下JAでは取扱い第2号となる「アグリシードファンド」（アグリビジネス投資育成㈱と連携した農業法人への資本供与）について、飛騨農業協同組合管内の農業法人に対し実行しました。

これからも、岐阜県下JAでは、地域の中核となる農業者等の発展に向けて積極的に取り組んでまいります。

1. 案件概要

出資先	株式会社 まんま農場
代表者	小林 達樹
所在地	岐阜県高山市上宝町本郷3450
事業内容	水稻栽培、園芸野菜、野菜加工事業

2. 出資の取組経緯

高山市上宝町本郷地区では、平成10年頃より、農家の高齢化や後継者不足による圃場の耕作放棄地が著しく目立つようになりJA、行政において対応に苦慮していた。

このような中、管内の有志による兼業農家4名で放棄田を借受け、順調に耕作面積を増やし、平成17年に採算の取れる農業を目指し「(有)まんま農場」を設立した。（平成27年に株式会社へ組織変更）

「(株)まんま農場」（代表取締役 小林達樹氏）は、地域農業振興と6次化に積極的に取組むこととしており、現在では40ヘクタールを耕作し、「コシヒカリ」「いのちの壺」「雪まんま」の3商品のブランド化により、米価の低迷に左右されることなく安定した売上を確保できるようになった。

また、平成24年からは介護用食材の需要が高まる中、経営の多角化を図るため低温スチームによる野菜加工事業を開始しており、最近では介護食材ばかりでなく火気や刃物を制限されている独居老人向けとして、また、加工残渣が出ないなどの理由から都市部のレストランからも引き合いがあり、需要に応えられていない状況となっている。

このような状況の解決を図るため、飛騨農業協同組合（本郷支店）が主体となって、アグリシードファンドの提案を行ったところ、稲作経営の維持と野菜加工事業の規模拡大を目的とした利用申込みがあり、アグリビジネス投資育成㈱の審査を経て出資が実現した。

この度の出資を受け、代表取締役の小林達樹氏は「私どもの地域農業に対する厚い情熱と取組に理解頂いた結果であり、引続き稲作事業の維持と野菜加工事業による地元農業の振興、地域の活性化に貢献したい」と語られた。

3. 事業スキーム図

